進捗報告書（実行団体）

● 提　出　日　：　2022　年　10　月　10　日
● 事　業　名　：　もじうみ里海探検隊　障害児等の体験格差解消事業
● 資金分配団体　：　公益財団法人 ブルーシー・アンド・グリーンランド財団
● 実 行 団 体　：　特定非営利活動法人あそびとまなび研究所

① 実績値

【資金支援】

アウトプット	指標	目標値	達成時期	現在の指標の達成状況	進捗状況＊
１．障害児や児童養護施設等の子供が、水辺の自然体験に参加できる状態となる。	①水辺の自然体験に参加した障害児や施設等の子供とその友人関係にある子供の数 ②水辺の自然体験を見学したり、情報を得た障害児や施設等の子供とその友人関係にある子供の数 ③水辺の自然体験に参加・見学した障害児や施設等の子供とその友人関係に	①地域全体で 200 人（初期値から 7 倍） ②地域全体で 2000 人（初期値から 5 倍） ③満足度調査（エンドラインベースライン比較）	2023 年 2 月	① のべ数としては達成 ② 半分程度　コロナで現場に入ることが難しいため、活動の伝達、啓発活動などでの周知などを実施 ③ 非常に高い ④ コロナで急な欠席などはあるが安定している。 ⑤ 達成　コロナで規模を大きくすることが難しいため、活動回数を増やして対応。 少しずつ、参加者の動きが良くなっている。コロナ前後で活動から抜けた家族、加わる家族がある。	1

	ある子供の満足度 ④水辺の自然体験活動に協力したサポーターの数 ⑤コロナ禍により、参加者側の活動参加に対する精神的ハードルが下がり、コロナ禍前と同等の参加状況に近づいている状態	④地域全体で 50 人（初期値から 5 倍） ⑤活動規模の調整・回数の増加（約 2 倍）			
２-1. 障害児やひとり親家庭等の保護者が、水辺の自然体験について、その有効性を認識している状態となる。	①水辺の自然体験を見学した保護者の数 ②水辺の自然体験を見学した保護者の満足度 ③水辺の体験活動についての説明などを聞いて、内容や目的を理解する（啓発活動） ④コロナ禍によって、下がっていた参加者側の活動意欲がコロナ禍前と同等の参加状況に近づいている状態	①地域全体で 50 人（初期値から 5 倍） ②満足度調査 ③地域全体で 500 人 ④コロナ感染への不安解消に向けたコミュニケーション機会の増加	2023 年 2 月	① 達成 ② 非常に高い ③ 達成 ④ 達成（予想以上に安定している。コロナで学校などへ行けない分、コミュニケーションの取れている活動仲間への信頼が増している？ コロナで他の活動が途絶えているので、結果的に問い合わせは多く、関心も寄せられている。	1
2-2. 障害児支援施設や児童養護施設、ひとり親支援団体等のスタッフが、	①水辺の自然体験を見学したスタッフの数 ②水辺の自然体験を見学	①地域全体で 30 人（初期値から 5 倍） ②満足度調査	2023 年 2 月	① 数名参加　海の活動現場そのものに出向くことは、コロナ禍にあって難しいので、他の活動会場へ来場していただくなど、丁寧に活動の紹介をし、理解を	1

水辺の自然体験について、その有効性を認識している状態となる。	したスタッフの満足度 ③水辺の体験活動についての説明などを聞いて、内容や目的を理解する（啓発活動） ④コロナ禍によって、下がっていた参加者側の活動意欲がコロナ禍前と同等の参加状況に近づいている状態	③地域全体で 1000 人 ④コロナ感染への不安解消に向けたコミュニケーション機会の増加		促している。 ② 非常に高い。大勢の参加はコロナで叶わないので、状況を他の支援者へ伝達してくれている。実際の見学や、参加を希望している施設スタッフも少なくないがコロナ禍で思うように進まない。 ③ 達成 ④ 達成　予想以上に安定している。信頼していただいている。活動見学などの依頼がある。	
3.実行団体間や連携協力団体とのネットワークが深まる。	①実行団体間や連携協力団体と定期的なコミュニケーションがある団体数 ②地域の連携協力団体等と交流したり、視察したり、協議する会議等の回数 ③実行団体間の事例等を共有する啓発活動等の回数	①10 団体 ②2 回/年 ③関連団体全体で、年 2 回以上開催 テーマ別分科会活動年 3 回	2023 年 2 月	① 達成（活動会場：もじ少年自然の家、玄海青年の家、水環境館、活動支援：NPO 法人キッズワーク、NPO 法人ドットジェイピー、活動紹介：市民活動サポートセンター、社会福祉協議会、子ども家庭局青少年課、環境ミュージアム、ユースステーション、あしたのつばさ・こどもの城・笑色（放課後等デイサービス）、NPO 法人チャイルドガーディアンズ、公営競技局（若松ボート、子ども食堂くれかきっちん）、近隣小中学校、高校、大学（自由ヶ丘高校、九州女子大）、など ② 達成、コロナなので個々に実施（集合しない） ③ 達成　活動を継続する中で確実に交流が行われ、関係は密になっている。活動紹介：グリーンパークなど活動会場にて エコライフステージ、市民活動マルシェ（市民活動	1

				サポートセンター祭などへの出展	
4 資金分配団体と様々な情報交換が行われ、あそびとまなび研究所のスキルアップや組織基盤強化が図られ、活動の公益性と持続可能性が高まる。	①資金分配団体との視察研修や、会議の開催や情報提供などサポートを受けた回数など ① 周辺団体との関係強化と、経済的基盤を得る	①年に 2 回の資金分配団体と全実行団体による会議の開催 ②月に 1 回以上の資金分配団体との対面会議（ネットによる会議を含む）の開催 ③活動現場における視察指導（年 1 回） ④周辺団体との連携の質の変化（有機的な連携、経済的支援など）	2023 年 2 月	① 達成 ② 達成 ③ 達成 サップの基材提供と、活動の安全管理サポート、水辺の安全指導をプールで実地で行っていただくなど。スタッフのスキルアップに繋がり、新たな活動会場を開拓でき、子どもたちや保護者からの満足度も非常に高かった。 ④ 達成 参加者の経済的負担が参加のネックとなっているケースがあるので、対策が必要 （親に決定権があるため、有料、である場合に子供に案内が届かず、参加ができないケースが出ている） コロナが長引いて、子育て家庭において、経済的な不安はますます強まっている。 地域の方、団体からの問い合わせは増えている。コロナが明けて少しずつ、生き残っている団体からのアプローチは増えている。	4 「経済的基盤」のみをのぞいては、1
5．支援地域において、新型コロナウイルス感染症対策を講じたことにより、障害児や児童養護施設等の子供が安全	①器材・設備等の拡充及び必要な人材を確保することで三密対策等の安全対策を講じた事業が実施できている状態	①支援対象地域全体で新型コロナウイルス感染症の十分な安全対策を講じて事業を実施している状態	2021 年 7 月	① 達成 感染症対策の機材、資材などはほぼ揃っている。活動規模の縮小、分散に際して一部補充が必要な部分が残っている。 看護師など専門家により、活動自体の感染症対策は	1

に水辺の自然体験に参加できる状態となる.				十分に講じられている。 コロナ禍の長期化により、直前での活動の中止など、混乱が続いているが、活動設定日以外での面談や、メールなどで参加者と運営スタッフ間のコミュニケーションは取れており、関係は安定している。 コロナ自粛の合間を縫って、活動を計画、実施できている。 養護施設はとてもガードが硬く、多方面からアプローチしているがなかなかリーチできない。	

＊進捗状況：1 計画より進んでいる 、2 計画どおり進んでいる 、3 計画より遅れている、4 その他

② 事業進捗に関する報告

1.事業計画に掲げた短期アウトカムの達成の見込み
1.達成の見込み
2.アウトカムの状況
A：変更項目 ☑ 変更なし　☐短期アウトカムの内容　☐短期アウトカムの表現　☐短期アウトカムの指標　☐アウトカムの目標値
3.（任意）活動に関する報告
初年度を踏まえて、二年目にビジター参加者の受け入れ、活動回数の増大などを行い、参加者数も増大した。 三年目も順調にビジター枠の活動、メンバー活動を行っている。メンバーは、活動や場所に慣れて、少しずつ活動の幅が広がりつつある。 スタッフワークをしている若手なども、かなりスキルが上がり、仕事の都合などで、毎回参加、というわけにはいかないが、連携しながら、カバーし合いながら活動できている。 コロナ禍にあって、密を避け、丁寧に活動を周知、拡大していくためには、相応の広報、事務負担、活動運営スタッフ数が必要となってい

る。
本事業により、様々な基材、活動会場、活動を支援してくださる人々とのつながり、などが生まれており、細々と繋いできた活動がとても安定的に、安心して、実施できる様になっている。活動の中から新たに生まれた取り組みや、B＆G さんからもたらされたさまざまな企画やスキル、仕組み、などがこの活動以外の現場ともリンクし、とても面白い活動として育っている。特に、「ボッチャ」と「サップ」は、子どもたちだけでなく、若手や大人にも非常に好評で、またやりたい、次はいつ？と楽しみにしている様子。サップについては、指導員確保、活動会場の確保などの課題はあるが、まずは、興味関心とやる気が重要で、次に、安全に活動に取り組むことができるための環境づくりにみんなで取り組んでいきたい。
コロナで、全国の仲間達との具体的な交流が行えなかったことは残念でした。九州内では、思い切って、他県への研修を試みました。
非常に勉強になりました。

③　広報に関する報告

1.　シンボルマークの使用状況
☑ 自団体のウェブサイトで表示している　☑ 広報制作物に表示している ☑ 報告書に表示している　☑ イベント実施時に表示している　☐その他 →「その他」を選択した場合は記載してください（自由記述）：
2.　広報
1.メディア掲載（TV・ラジオ・新聞・雑誌・WEB 等） JCOM、コミュニティ FM での活動紹介 自団体 HP での活動紹介　（取材あり）　北九州市子育てマップ北九州での案内、 活動会場での、活動の告知、紹介（若松ボート、市内各所でのフードパントリー活動会場など） 北九州市子ども家庭局青少年課、夏冬チャレンジ（市内全小学生配布）活動紹介 非常にたくさんの申し込みがあった。活動を二部性、分割するなどして、安全管理、コロナ対策を行った。 市民活動サポートセンターにて随時活動展示と、チラシ等資料設置 北九州市市民活動サポートセンター　活動広報紙　取材応対　B＆G 制作パンフレットと活動チラシの常設 〃　フードパントリー活動時に、コミュニケーションブース設置と、アンケート協力依頼　活動紹介パネルの設置 自団体 HP にて活動の紹介、参加者の公募を行う

夢みらいわーく（市内学生向けキャリア教育イベント　8000 人来場）会場での展示。
NHK への海洋プラスチックゴミについての取材協力
北九州市東アジア文化都市作品順外展示会場での、活動紹介展示。
若松ボート、環境ミュージアム、コムシティ、水環境館、グリーンパーク都市緑化センターなどでの展示

エコライフステージ、黒崎商店街でのおまつり、戸畑商店街での子ども食堂フェスタなど、
地域の賑わいが少しずつ帰ってきているので、なるべく多くの会場に出かけ、活動紹介、啓発を行っている。

2.広報制作物等
社会福祉協議会ボランティアウイーク 2022 への展示
エコライフステージ団体紹介動画での活動紹介（北九州市サイトでの公開、JCOM 制作）

3.報告書等
B＆G 財団さんに作成していただいたもの
福岡県ボランティアセンター　活動広報誌　休眠預金事業記事掲載（昨年度、各地で展示、配布中）
＊北九州市内では休眠預金自体の取り組みが少なかったため、市や議員さんなど様々な方々からの問い合わせがあった。

4.イベント開催等（シンポジウム、フォーラム等）
環境ミュージアムでの夏活動展示報告会を実施。子ども食堂フォーラムや、市の主催行事、などへの出展を実施、予定している。

添付資料

活動の写真（画像データは 1 枚 2 MG 以下、3～4 枚程度）